



『ユニバーサル農業  
~京丸園の農業/福祉/経営~』

鈴木厚志 著

創森社 刊 (TEL03-5228-2270)

定価 2,200円 (本体2,000円+税)

静岡県浜松市の農業生産法人京丸園は障がい者雇用の成功事例として全国的に知名度が高い。同法人を経営する鈴木厚志氏は農福連携を推進することで経営を大規模化させた。その道のりをまとめたのが本書だ。

芽ネギ、ミニチンゲンサイなどを水耕栽培する同法人の従業員102人のうち22人が障がい者だ。氏は生産工程を細分化し、障がいを持つ従業員個々の特質を見極めて合う仕事を振り分けた。また、従業員の身体的不利を補い、彼らの強みを引き出すための作業機器をメーカーに特注し、福祉の視点で生産工程を明確・明文・標準化した。それが生産効率を大きく上げ、経営を拡大させた。

家族経営農家出身の氏は「親の背を見よ」と言われた世代だ。生産技術を口承できるのは家族だけだと経験上知っていたからこそ、作業標準化の重要性を理解し得たのだろう。

2016年に農水省主催の農福連携フォーラムで登壇する氏を見た。「障がい者の雇用に経済的リスクはない」と言い切った姿が印象的だった。

私たち人間には生き抜くための能力が備わっていて、その能力は人によって様々だ。氏は障がい者と相対してそれを実感し、彼ら個々の能力を引き出す試みを積み重ねる。それが豊かな多様性として花開いたのだと考え、本書は論理的な農福連携の実践書でありながら、農業が本来持つ包摂性を知らしめ、人間の計り知れない可能性を問い掛ける本でもあるのだと思わずにはいられない。

氏は「農業には、単に農作物を生産・販売するだけでなく、障がいのある方や高齢な方にも、無理なく働く場を与える要素がたくさんあるのです」と記す。一般社会のいう効率化から離れ、人の能力を活かす方向を選択することが、農業が農業として生き残る道ではないのか。本書は警告のごとく胸に迫ってくる。

(日本農業新聞 齋藤 花)